慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ヅーリン著『フロンド党』: Paul Rice Doolin, The Fronde, 1935
Sub Title	
Author	下田, 博
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1937
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.31, No.3 (1937. 3) ,p.495(155)- 500(160)
JaLC DOI	10.14991/001.19370301-0155
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19370301-0155

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ヅーリン著「フロンド黨」

——Paul Rice Doolin, The Fronde, 1935.——

下田博

一

封建的社會裡に於いて、市民階級が次第に擡頭し、舊來の支配階級たる封建貴族に對抗するに至れるとき、其の同盟者となれるものは、新たに勢力を增大しつゝあつた民族的國王である。併し乍ら、之を英國に就いて觀るに、英國に於いては、國王勢力の比較的强固なる封建制度の樹立せられて居つたゝめに、夙に、封建諸侯の勢力を掣肘し、內亂の戰禍を免れしめ、國民的統一、近代集權的民族國家の完成を容易ならしめたのである。

英國封建制度の斯かる中央集權的特質は、國王と相互依存の關係に在る市民階級の成育に取つて誠に好き溫床であつたと云はなければならない。然も、初め王權の庇護に依り、マーカンチリズム政策に依つて、哺育せられ、後見せられたる市民の手に富が蓄積せられ、斯くて其の經濟的勢力の增大を來せる彼等が、從つて政治的支配勢力としての地位を要求するに至れるとき、かの「光榮革命」は、實にまた、專制王權の撤廢、議會の地主的並びに資本家的貨殖家に依る直接支配の確立を宣言し、茲にブルジョワジーの政權獲得への端緒が開かれたのである。英國ブル

ジョワジーの發展過程は、斯く、滑めらかなるものであり、其の自然的發展を妨げる重大なる摩擦をば見ることがなかつた。否な、誠に、「イギリスのブルヂョアは、已れ自身の利益のために行動することを毫も誤らなかつたのである」（マルクス、資本論、高畠譯、第一卷第二冊、第七一八頁）。

然るに、其の封建體制に於いて頗る地方分權的なる佛蘭西の場合は如何。正に逆。佛蘭西に於ける強固なる地方分權的封建制の確立は、正に其の故に、新興ブルジョワジーと王權との締盟に依る、封建貴族の抑壓をして勢ひ激烈たらしめざるを得なかつた。即ち、佛蘭西マーカンチリズムが實に何處にも見られぬ程顯著なる發展を遂げた所以であるが、然も、敍上の佛蘭西封建制の特質、即ち其の分權性、從つて封建的殘存勢力の强靱にして對內的國家統一の困難なることと、更に佛蘭西の地理的自然的條件、即ち島國英國と異り直接外敵の脅威に暴されて居り、殊にマーカンチリズム時代の一特質たる强烈な國際的嫉妬乃至國民的反感に燃えたる當時の國際的對立の眞唯中に置かれて對外的國家獨立の不安なることゝは相俟つて、茲に佛蘭西王權をして、其のマーカンチリズム哺育政策に依るブルジョワジーの成熟にも拘らず、ブルジョワ・デモクラシーへの傾斜を許すどころが、愈々絕對王制の强化とマーカンチリズム政策に依る對內的統一及び對外的獨立の强行とに向はざるを得ざらしめたのである。

英國にとつて第十七世紀は議會主義にまで發展せる時代であつたのであるが、佛蘭西に於いては正に之と逆に此の世紀の間に王權が鞏化し、絕對主義に轉化したのである。而して此の絕對主義の下に行はれたものは何か。無論、王權と締盟の關係に在つて、其の必要とする財源を提供せる、新興都市ブルジョワジーの經濟的發展の極度の促進と、同時にまた、封建的殘存勢力就中貴族に獨立と鬪爭の手段を與ふ可き農業的發展の抑壓乃至農業に對する極度の收奪とでなければならなかつた。從つて、斯かる國策の遂行が、ブルジョワ化せざる貴族にとつて誠に堪え難きものであつたことは云ふ迄もない。然も、王權が、之に止まらず、更に、直接、貴族的集團に對する政治的自由の剝奪を强行し、殊に、リシュリューの如き、ヨゼフなる老僧を利用して輿論を煽動し、頻りに有力なる貴族、諸侯を捕縛、追放、死刑に處する等、貴族的勢力驅逐のために殆ど手段を選ばざるに至つては、遂に貴族の不滿は絕頂に達し、何等かの形態に於いて爆發せざるを得なかつたのである。所謂貴族的フロンド黨の叛亂の直接の起因は即ち茲に在ると云つて差し支へない。然らば、此のフロンド黨の運動とは抑々如何なるものであつたか。其の目的は何か。又其の史的意義は如何に解せらるべきものであるか。

二

今茲に紹介する、ヅーリンの著「フロンド黨」は、六章より成り、而して著者は、先づ、最初の二章に於いて所謂フロンド黨の運動に關する詳細なる敍述を行つて居るのである。

ところで、フロンド黨の叛亂が、一六四二年十二月にリシュリューが歿し、國王路易十三世も亦翌年世を去り、幾くて路易十四世年齡僅かに五歲にして即位するや、母后アンヌが伊太利人マザランを宰相として萬機を總裁せしめんとしたるとき、このとき、コンデ公を首領とする不平貴族の一團の起こした一種の革命運動であることは、史上に周く知られて居る所であるが、然も此の運動は前後二回に亙つて行はれたのである。

即ち、其の第一回（一六四八年―一六四九年）は、貴族の參加を得て、高等法院（Parlement）及び巴里市民の起こせる暴動であり、著者が第一章に於いて取扱つて居るのが即ち其れである。而して、其の第二回（一六四九年―一六五三年）は、主として貴族の叛亂であつて、著者は第二章を之に充てゝ居るのである。而して、其の間、高等法院はマザランに追放命令を發し、又民衆は異國人を宰相に戴くことを國辱として憤激し、「巴里の閉塞」を行ふ等、終

ひに、叛軍の將コンデが、マザランに依つて、サンタントアンヌ(Saint-Antoine)に於いて擊破せられるに至るまで、所謂フロンド黨の叛亂は、實に、五年間も斷續したのである。正に、之れ、佛蘭西大革命以前に於ける最終且つ最大の革命的運動と稱し得るものであらう。

然らば、此の運動は如何に意義附けらるべきものであるか。

恐らくは、此の運動が、新時代を代表する市民階級に依つてゞはなく、過去の階級即ち封建的殘存勢力の一たる貴族的階級に依つて惹き起こされ、然も內亂中公にせられたる出版物中に皇太后とマザランとの私的關係を暴露せる諷刺的のものが勘からず存したり、又た此の叛亂に貴族相互間の欺瞞、陰謀が多分に加つて居つたこと等から、論者或は此の運動を以て貴族相互の、私的利害に立脚せる、一種の勢力爭ひと做し、又た或は、此の運動が、無組織な騷擾や叛亂の形を以て行はれ、王權の鞏化に對する反抗を目的として居り乍ら、其れが王權を弱めずして、却つて逆に之を鞏化するの結果を生ずる等、全く果敢なき鬪爭に終つたことより、之を以て誠に稚戲に類せるものと評し去り、斯くて此の運動に參加せる貴族をば「石を投げ附けて、逃げ去る遊戲(即ちフロンド)に耽れる子供達」に譬へ、所謂フロンド黨の叛亂なる名稱は、實に、此の子供の遊戲に由來すると主張する、極めて嘲笑的なる解釋を下して居る論者もあるのである。正に、ラヴィスの如き、其の一人であつて、彼に依れば、フロンド黨の叛亂は、「蓋し一種の遊戲(un jeu)であり、然も厭はしき(abominable)遊戲であつた。」(Ernest Lavisse, Histoire de France, Illustrée, Depuis les origines jusqu'à la Révolution, Tome VII—Première Partie, Louis XIV, de 1643 à 1685., 1911, p. 42.)

然るに、此の「フロンド黨」の著者ヅーリンは、此のフロンドの役を以て、個人的氣紛れや、私的利害より出發せる、單なる貴族の勢力爭奪戰でもなければ、無論遊戲でもなく、正しく、一大政治的鬪爭であつたと看るのである。即ち、著者をして云はしむれば、フロンド黨の叛亂は、一絕對者に全權を許與し、其の自己保存と榮光保持のために國民的奉仕を强要する絕對專制政治に對する、實に、正義とカトリック的生活とを目的とする合理的なる立憲政治の鬪爭であつた。(特に第一〇九頁―第一一〇頁及び第一一一頁以下參照)換言すれば、ブルジョワ・デモクラシーの獲得、之こそ彼等の求めて已まざるものであつたのである。

而して、從來、フロンド黨の叛亂を以て、英國に於ける議會運動に感染せるものと看る論者は必ずしも尠くなかつたのではあるが、然も尙ほ彼等は之を以て多分に保守的傾向を包含せるものと做し、徹底的なる議會運動と斷定することに對しては極めて浮動せる態度を持して居つたのである。然るに、之に對して、此の著者の場合、斯かる一切の動搖を捨て、此の叛亂乃至運動の全意義乃至目的を、徹頭徹尾、議會政治の獲得に在りと明確に規定し、然も之を立證せんがために、第三章以下第六章に至る四章に亘つて、誠に、豐富なる資料を掲げ、其の詳細且つ綿密なる考證を行つて居るのは、一應從來の研究に對して一步を進めたものと云ひ得るであらう。

たゞ、併し乍ら、然らば、此の運動が何故に徒勞な騷擾に終つたのであるか。若しくはまた、殊に强度のマーカンチリズム啇育政策に依る其の經濟的成熟、發展と共に廳て政治的支配勢力としての地位を要求すべきブルジョワジーとの締盟に依る一大國民運動にまで共れが發展し得なかつたのは何故であるか。結局、ブルジョワ化せざる、封建的宮廷的貴族・官僚の徒「フロンド黨」は、資本の原始蓄積國家形態の政治的表現たる絕對王制の撤廢を要求する最も激動せる分子ではあつたが、然も、廳て共れが契機となつて市民・農民大衆にして眞にブルジョワ民主的に覺醒するに至るならば、共れは却つて彼等の豫期せざる自己崩壞を招來するが故に、彼等の運動は、正に本質的に

は斯かる要因に制約せられて、ブルジョワ・デモクラシー獲得への一面は持つが、市民・農民の眞のブルジョワ民主的起動に對しては、寧ろ慄然として封建制を回復し、之に汚染せる方法を以て、逆に市民・農民を攻撃する面を現はさゞるを得ず、然も其處にこそ彼等の本質があるのではなかつたか。從つて、斯かる階級的本質を有する、ブルジョワ化せざる貴族・官僚より成れるフロンド黨の運動が失敗に終り、彼等に依つてブルジョワ・デモクラシーが闘ひ取られなかつたのではなかつたか。吾々の分析は、茲に至り、否な茲に至つて初めて、貴族的フロンド黨の運動を全面的且つ本質的に把握し得ると考へられるのである。

然るに、此の著者の場合、單にフロンド黨關係文書の文獻考證のみから、此の運動の意義をブルジョワ・デモクラシーの獲得に在りと做し、當時の政治經濟的諸關係、此の運動參與者の經濟的基礎及び其の階級的制約乃至本質を看過し、從つて此の運動の本質規定の問題に於いて、聊か、分析不充分の嫌ひがあるのは、當だに諸者をして物足らぬ感をば抱かしむるのみならず、其處からは此の運動の、從つてブルジョワ・デモクラシー獲得の鬪爭の遂に敗北に終れる窮極的本質的原因が出て來ない。若し其れを强ひて求むれば、其れは、必然、通俗史家說く所の英佛政情の相異論とか、叛軍の時コンデと宰相マザランとの戰ひに關する軍談記とかに陷る如く、極めて漠然且つ卑俗なる所論に墮するに過ぎぬ。無論、吾々の採るところではない。

斯くて、吾々は、本書に對して可成りの不滿もあれば、又本書に於ける分析不充分の點も充分に指摘せられなければならない。だが、斯かる不滿、不充分の點があるとしても、著者が、豐富なる資料の涉獵に依つて、フロンドの運動に於けるブルジョワ民主的意義を指摘したことは、其の限りに於いて、上記せる從來のフロンド研究に對する一歩前進であり、一つの貢獻であると云ひ得やう。而して筆者が敢て本書を紹介する所以も亦實に茲に在るのである。

前號（第三十一卷第二號）目次

◉支那に於ける道路建設に就て　增井幸雄
◉景氣の獨占結成に及ぼす作用　武村忠雄
——獨占結成の質量變化の交代過程——
◉身分構成に現はれた地域性　奧井復太郎
『三田』社會調査報告第二
◉景氣循環と商品貯藏量の關係　山本登
◉維新當時における品川宿の助鄕　野村兼太郎
（社會經濟史資料紹介）
◉ラスキ「ヨーロッパ自由主義の發達」加田哲二
Harold Laski, The Rise of European Liberalism, 1936. London
◉馬場敬治著『技術と社會』（第一卷）　藤林敬三
◉ナチス獨逸に關する三文獻　加田哲二

◉一冊定價金五拾錢　◉半ケ年分金貳圓九拾錢　◉一ケ年分金五圓四拾錢　郵稅金壹錢五厘　郵稅共

三田學會雜誌　禁轉載

第三十一卷　第三號

昭和十二年二月廿日印刷納本　昭和十二年三月一日發行　毎月一回一日發行

◉編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
◉營業に關する用件は發賣元宛
◉原稿締切期日は發行の前月十日限

編輯兼發行者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内　江田範保

印刷者　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子鐵五郎

印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所

發賣元　東京市芝區三田二丁目一番地　丸善株式會社三田出張所　電話三田(45)九二六番　九二七番　振替口座東京一八五三番

◉尚ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所　東京芝三田慶應義塾内　理財學會　振替口座　慶應義塾　芝區三田二ノ二　東京一八二〇四番